

解析学 II 演習. 問題 6

2025 年 6 月 27 日

注意. 極限や級数に関して学んだ事柄を用いてよいが, 解答に何を使ったかを明記すること.

例. $\sum_{n=0}^{\infty} x^n$ は, $|x| < 1$ のとき $\frac{1}{1-x}$ に収束し, $|x| \geq 1$ のとき発散する.

• $a > 1$ ならば, 任意の $k \in \mathbf{R}$ に対し $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n^k}{a^n} = 0$

• $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n}$ は発散するが, $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2}$ は収束する.

• 比較判定法, 優級数定理, ダランベールの判定法, コーシーの判定法

問題 6.1. 次のべき級数の収束半径を求めよ.

(1) $\sum_{n=0}^{\infty} 5^n x^n$ (2) $\sum_{n=0}^{\infty} n^5 x^n$ (3) $\sum_{n=0}^{\infty} 2^n x^{3n}$

(4) $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{2n^2} x^n$ (5) $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{(3n)!}{(n!)^3} x^n$ (6) $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{(2n)!} x^{2n}$

問題 6.2. $\frac{1}{1+x^2}$ のべき級数展開 $\frac{1}{1+x^2} = \sum_{n=0}^{\infty} (-x^2)^n$ を考える.

(1) べき級数の収束半径 ρ を求めよ.

(2) $|x| < \rho$ なる x に対し, $\int_0^x \sum_{n=0}^{\infty} (-t^2)^n dt$ をべき級数の形で求めよ.

(3) $\int_0^x \frac{1}{1+t^2} dt$ を求めよ.

講義で証明した交代級数の収束に関する定理より, (2) で求めたべき級数は $x = \rho$ で収束する.

(4) $\int_0^{\rho} \frac{1}{1+x^2} dx$ の値を求め, $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{(-1)^n}{2n+1} = 1 - \frac{1}{3} + \frac{1}{5} - \frac{1}{7} + \frac{1}{9} - \dots = \frac{\pi}{4}$ を示せ.

問題 6.3. 次の広義積分の値を求めよ. ただし, $xe^{-x} \rightarrow 0$ ($x \rightarrow \infty$) は証明なしで用いてよい.

(1) $\int_0^1 \frac{1}{\sqrt{x}} dx$ (2) $\int_1^{\infty} \frac{1}{x^{3/2}} dx$ (3) $\int_0^{\infty} xe^{-x} dx$

問題 6.4. (1) $a > 0, 0 < \delta < 1$ のとき, $\int_{\delta}^1 \frac{1}{x^a} dx$ を求めよ.

(2) $\lim_{\delta \rightarrow +0} \int_{\delta}^1 \frac{1}{x^a} dx$ が存在するための正の定数 a に対する条件とそのときの極限值を求めよ.

問題 6.5. (1) $a > 0, b > 1$ のとき, $\int_1^b \frac{1}{x^a} dx$ を求めよ.

(2) $\lim_{b \rightarrow \infty} \int_1^b \frac{1}{x^a} dx$ が存在するための正の定数 a に対する条件とそのときの極限值を求めよ.

問題 6.6. 次の広義積分の収束, 発散の判定をせよ. ただし, $a > 0$ とする. なお, 上の問題の結果を用いてよいが, どの問題を用いたかを明記すること.

(1) $\int_e^{\infty} \frac{1}{x(\log x)^a} dx$ (2) $\int_0^{\infty} \frac{1}{\sqrt{x}+1} dx$ (3) $\int_2^{\infty} \frac{1}{x^{3/2}-1} dx$